

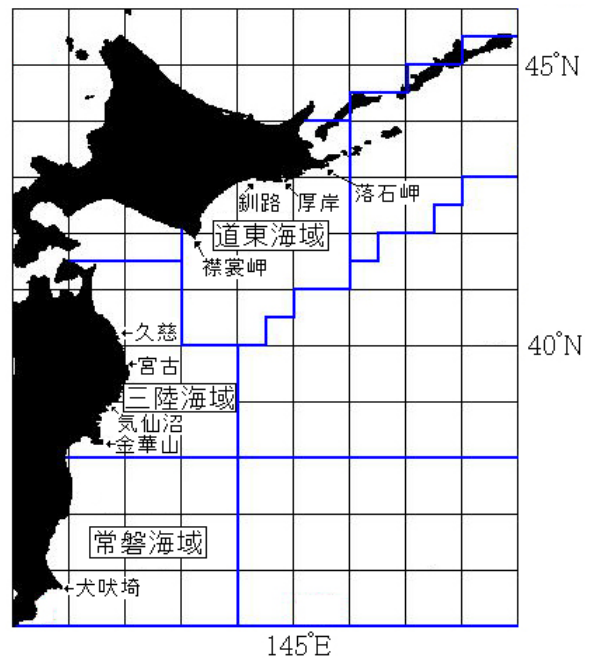
平成24年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2012年10月上旬～11月中旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月上旬は中位水準となる。10月中旬から徐々に減少する。
- ・三陸海域では、10月中旬に一時的ではあるが来遊がある。10月下旬まで低位水準で推移するが、11月上旬は中位水準となる。
- ・常磐海域では、11月上旬に一時的ではあるが来遊がある。11月中旬まで低位水準で推移する。



海域の名称

問い合わせ先

社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

平成24年度 第3回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2012年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は増加し、10月上旬は中位水準となる。10月上旬～中旬は中位水準であるが、10月中旬から徐々に減少を始め、10月下旬～11月上旬は低位水準となる。11月中旬は断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場

10月上旬の主漁場は、落石～釧路沖となる。10月中旬は、漁場が襟裳岬沖まで広がる。11月上旬になると落石沖の漁場が消滅し、11月上旬は厚岸～襟裳岬沖に、11月中旬は襟裳岬沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月上旬は、来遊の見込みが無い。10月中旬は、一時的ではあるが来遊があり、来遊量はゆるやかに増加する。10月下旬までは低位水準であるが、11月上旬～中旬は中位水準となる。

(2) 漁場

10月中旬は、三陸北部に一時的に漁場が形成される可能性がある。10月下旬までは、漁場は三陸北部であるが、11月上旬になると漁場が三陸南部まで広がる。

3) 常磐海域（予測の根拠は「4. 常磐海域の来遊予測について」を参照）

(1) 来遊量

11月上旬は、一時的ではあるが来遊がある。来遊量は増加するが、11月中旬は低位水準である。

(2) 漁場

11月上旬は、常磐北部に一時的に漁場が形成される可能性がある。11月中旬になると、漁場は常磐南部まで広がる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量	→	↘	↘	↘	-----→
	動向	中位水準	中位減少	低位減少	低位減少	断続的
	漁 場	落石～釧路沖	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量		→	→	→	→
	動向		一時的	低位増加	中位増加	中位水準
	漁 場		北部	北部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量				→	→
	動向				一時的	低位増加
	漁 場				北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年並みの低位水準であった。道東海域よりも北東側の花咲港東北東～東沖における来遊量の水準は、ほぼ前年並みであった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に増加している。

(2) 漁場

主漁場は、道東海域よりも北東側の、花咲港東北東～東南東沖（10～19℃）であった。花咲港東北東～東南東沖（10～19℃）では、連日多くの船が操業。期後半から、濃い大群も出るようになり、操業した日のうちに花咲港に入港できる船が多かった。

(3) 魚体

道東海域よりも北東側の花咲港東北東～東南東沖では、体長31～32cmモードの大型魚と26～27cmモードの中型魚主体。前年よりも中型魚以下の混じり具合が多い。大型魚の体重は、150～160g台主体で、痩せている個体が多い。

4. 常磐海域の来遊予測について

本予報では、常磐海域への魚群の来遊時期は平年よりも遅く、11月上旬になると予測しているが、その根拠は以下の通りである。

2012年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所が北海道区水産研究所北光丸および北海道教育庁北鳳丸（用船）を用いて中層トロールを使った漁獲調査の結果では、サンマは東経159°以東で主に採集され、それより西側では非常に少なかった。このように、今年も前年に引き続き、漁期前調査時に西側の海域でサンマが少ない状況が継続していると考えられる。一方、本調査結果から推定した東経143°～西経177°における推定資源量は、重量ベースで160万トンと昨年の249万トンを下回り、また尾数ベースでも201億尾で昨年（282億尾）を下回り、ともに調査を開始した2003年以降では2010年に次ぐ低い値であった。

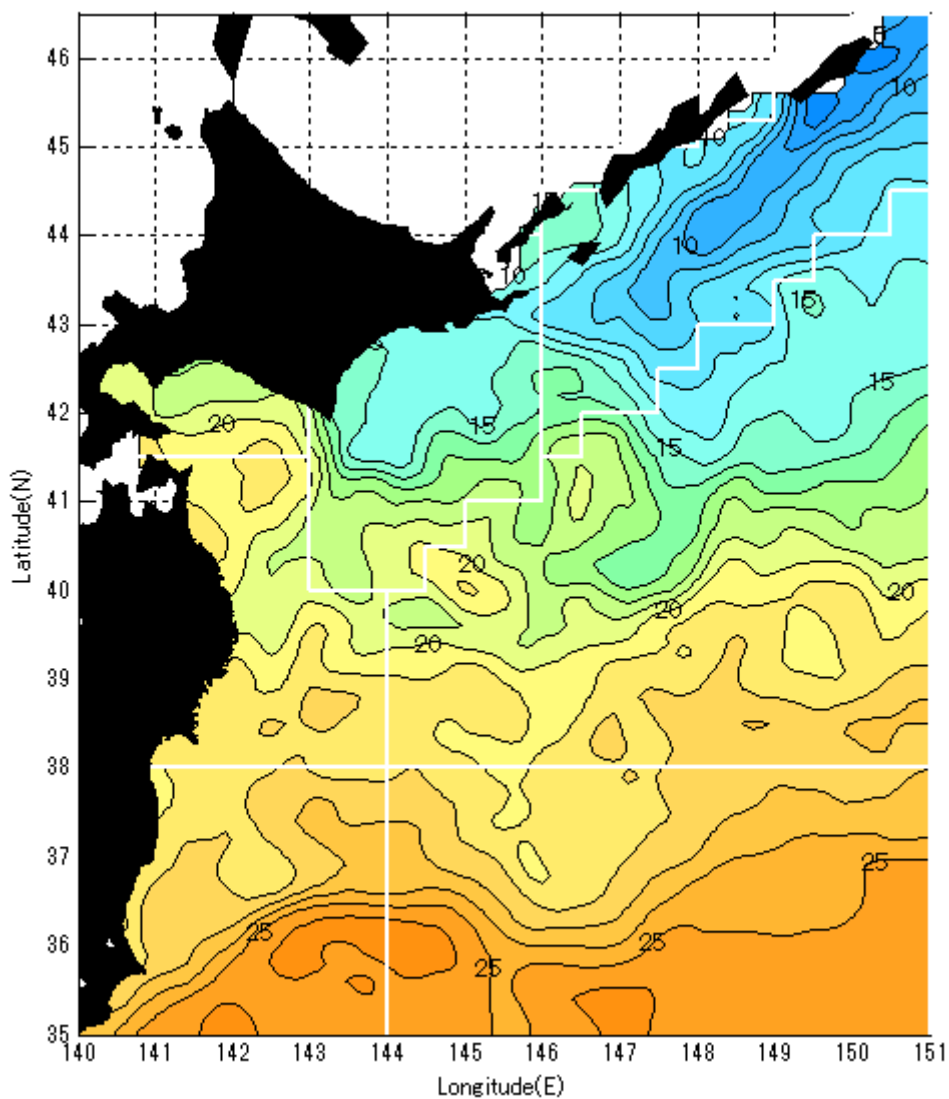
9月中旬までの水揚量の動向を見ると、今年は時化が少ない事もあり、昨年および一昨年来を上回っているものの、来遊量水準は前年並みの低位水準であった。一方9月中旬の主漁場は、道東海域において表面水温がかなり高いことも影響し、花咲港東北東～東南東沖である。魚群の南下が早い年（例えば2002年）は、9月中旬に三陸北部に漁場ができていた事と比べると、今年は昨年に引き続き魚群の南下が遅い。これらの事から、沖合に分布したサンマの群が漁場に来遊しているものの、魚群の南下は遅いと考えられる。

現在、道東海域の襟裳岬南東沖に暖水塊が存在するが、魚群の南下を妨げるような場所ではない。しかし本中短期予報結果では、水温が高いことも影響し、三陸南部は11月上旬になって漁場が形成される。予測水温分布図では、常磐海域で全般的に水温が高く、11月上旬になると例年漁場が形成される18℃台が広がる。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、平年（2001年から2010年までの10年間：10月下旬）よりも遅く11月上旬になる。

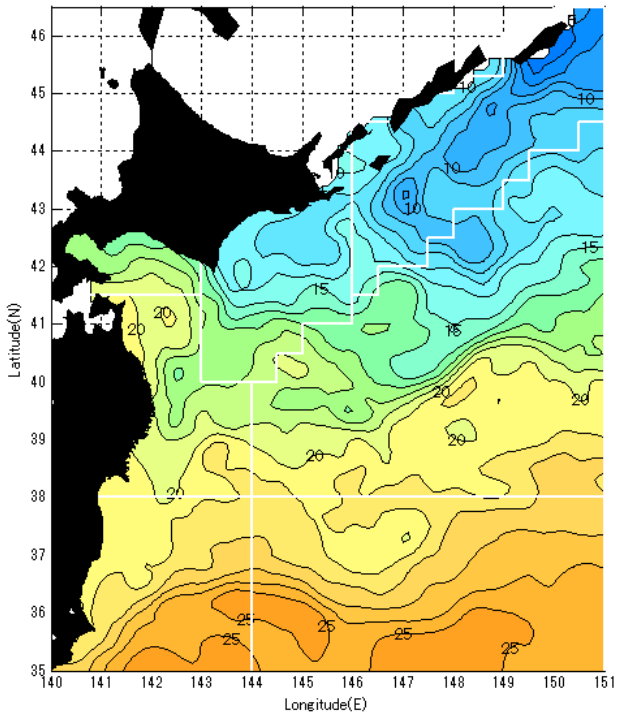
なお、9月中旬における水揚物の体長組成は、大型魚と中型魚主体である。一方、東北区水産研究所の漁期前調査結果では、東経160°以東の海域では0歳魚の割合が高い。これらのことから、常磐海域における魚体は、大型魚の割合は低く、中小型魚主体で推移する。

5. 予測水温分布図

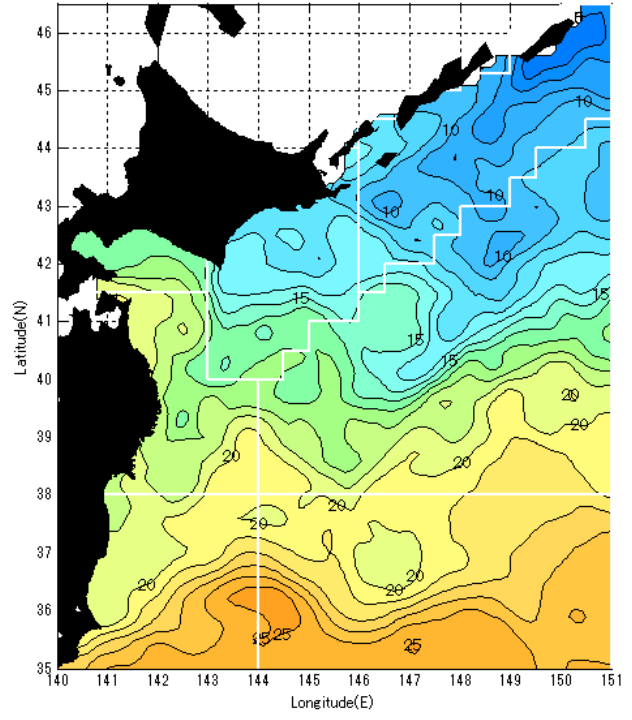
10月上旬予測表面水温分布図



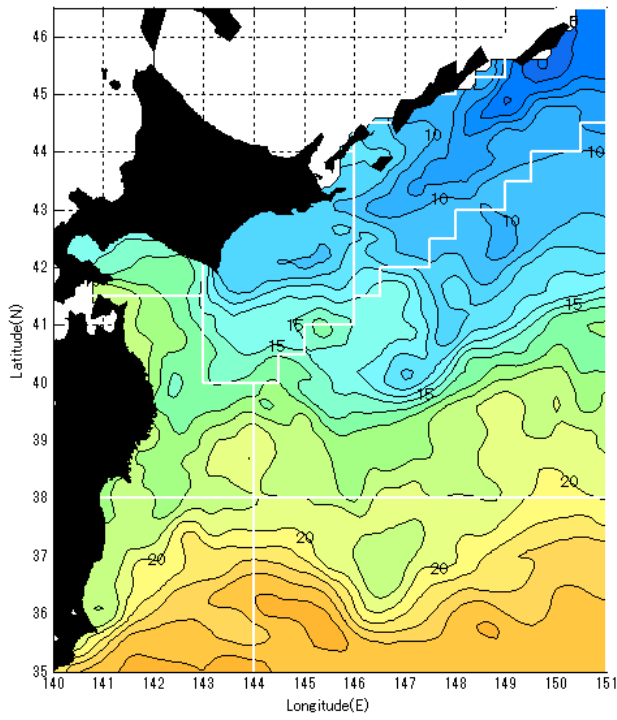
10月中旬予測表面水温分布図



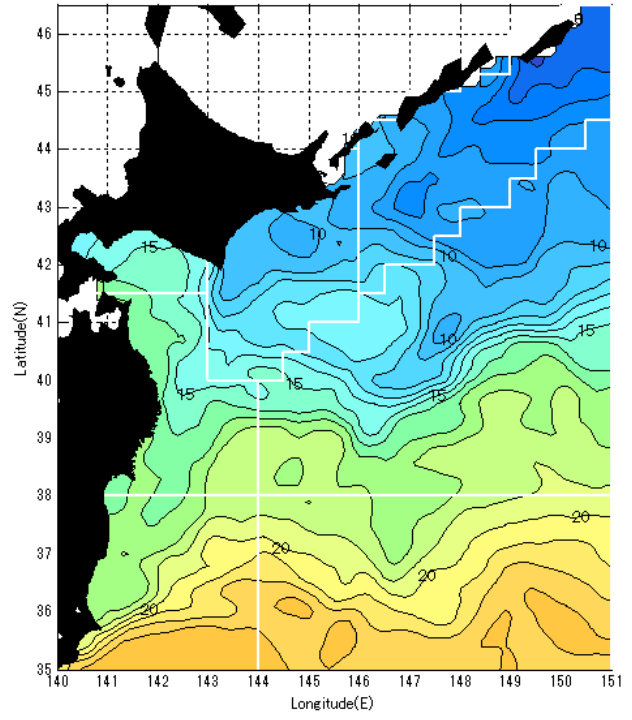
10月下旬予測表面水温分布図



11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	--